

2021年度 第1回町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

- 開催日時 2021年12月23日（木曜日）10時～12時
- 場 所 オンライン開催（事務局：町田市庁舎10階会議室10-2）
- 出席者 出席委員： 西田司委員長、高橋清人副委員長、川原晋委員、
王莉莉委員、西村靖生委員、伊藤博之委員、三田村貴幸委員、
亀田文生委員
欠席委員： 和田圭司委員
傍聴者： なし
事務局： 経済観光部長
観光まちづくり課長
他事務局4名
- 資 料
- 1 町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
 - 2 町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
 - 3 「町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト2022～ウィズコロナ戦略～」策定に向けた骨子案

○次 第

1 町田市観光まちづくり推進委員会について

- ・委員会概要説明及び委員紹介

2 議題

- ・新たな観光まちづくりリーディングプロジェクトの骨子案について

資料3に基づき事務局から説明。

委員からの主な質問・意見等

【リーディングプロジェクトのコンセプトについて】

・現行のリーディングプロジェクトを策定した2017年は、オリパラを控え、観光業界が伸び盛りであったが、これからはウィズコロナで考えていかなければならない。町田のファンづくりは関係人口増加のためには必要なこと。町田は20代の転出が多いが、出て行った人が多いということは、逆に町田にかかわりがある人が市外にも多くいるということ。その人達を関係人口として取り組む

ために、離れていても町田の一員だと思えるような取り組みがあるとよい。また現在の状況では長距離移動は難しいので、マイクロツーリズムはよいと思う。ただ、それだけでは観光消費額が上がらないので、プラスアルファを想定していかないといけない。

- ・このコンセプトを、どう工夫しながら実践していくのかが大事だと思う。例えばターゲットを若い世代にしているなら若い世代のアイデアを取り入れて、先ほども話があったプラスアルファのある計画になると効果があると思う。

- ・コロナが収束しても観光の流れは変わらないので、マイクロツーリズムや町田のファンづくりというコンセプトはいいのでは。ただ、今までやってきたことも間違いではないので、それをさらに発展させて町田の魅力を高めてファンを取り込んでほしい。

- ・2年間国際交流活動はできなかったが、今は近場で芋ほりやミカン狩りのような体験ができないか模索している。マイクロツーリズムというのは、国際交流の取り組みにも合っているのかなと思う。その際、SNSの発信が大事だと感じている

- ・薬師池公園は多くの方が来園しており、近くでも観光を楽しみたいという需要があるなかでマイクロツーリズムは重要なファクターになると思う。ただ、外国人観光客数は2024年以降回復するのであれば、今はその準備期間だという認識も持たなければならない。また町田のファンを増やすためには、観光を受け入れる側がどう接するかにも大きく左右される。

- ・今年の町田は大手メディアに取り上げられることがあり、改めてメディアの力の大きさを知った。マイクロツーリズムというコンセプトはよいが、メディア、SNS等を含めて、いかに魅力を伝えるかが重要。

- ・ファンづくりはどこでも言われているが、実際は難しいもので、人との交流要素がないとリピーターが増えないという研究がある。情報を発信するだけではファンが増えないため、体験や共同作業を通して共感できる時間をどう作るかが考えられるとよい。例えばサッカーやフットパスなど、一生懸命活動されているや地域の資源と観光客が結びつくともよい。

担い手が誰を想定しているのかわからない。市民を想定しているようだが、企業も担い手になる。観光ビジネスとして考えれば、企業とも一緒に取り組むべきだ

と思う。

マイクロツーリズムを押し進めていくのであれば、それを実際に行っている人達の観光行動を把握し、ハードとソフトを一体にして考えていくべきである。情報発信は行っていくべきだが、ブランディング化するという事は長期的なもので、ハードルが高い。

【リーディングプロジェクトの数値目標について】

・経年変化を見る必要があるのではこの数値目標はよいと思うが、地道な施策の積み重ねが、大きな環境変化に飲み込まれて成果が見えにくくなってしまいう側面があるので注意しなければならない。日本に住んでいる外国人は SNS を使っとうまく情報発信をしていたりするので、そういうキーマンを大事にし、SNS を指標にするのもよいと思う。

・2026年度の目標としてはよいと思う。ただ、単年度の目標値も必要で、その毎年の積み重ねが目標値になるのだと思う。

・数値目標の設定は難しい部分があるが、これはこれでよいと思う。

・なぜ観光入込客数を増やすのかと考えると、人口減少の過程の中で観光振興により地域を活性化させるという目的があるので、観光消費額を観察していく必要があると思う。

・数字がどうかというより、今後取り組んでいく内容がしっかりとこの項目につながるものであればよいと思う。

・次の施策につながる数値になっているかは疑問で、ファンの獲得をコンセプトにするのであれば、例えば行政が SNS を運営して、フォロワー数を図るといったことが状況を的確に図れているのではないか。青梅ブルーというものが成果を上げている。

また、マイクロツーリズムとして近隣の方をターゲットにしているのであれば、暮らしやすさとか満足度とか、豊かさを図る指標があっても良い。

これからは人を呼び込むだけでなく、一歩踏み込んで、町田市の課題を、観光を使って解決できるとよい。

【リーディングプロジェクトの取り組み内容について】

・フットパスについては、他の地域とも交流していくという視点と、魅力を再発

見するだけでなく、地元の人達の観光に対する理解を深めていくことも必要。

・もう少し具体的な中身と、それに対する目標が必要になってくると思う。また、観光まちづくり課だけでは進まないことも多いので、市役所内の他の部署を巻き込みながら取り組みを展開してほしい。

・もう少し具体的な中身を詰めていく必要がある。例えば、先ほど話が出た企業との連携という点では、小田急さんや東急さん、キープウィルダイニングさんとの事業がこの中に入ってきてても良いのでは。

・他の地域でも里山や公園といった資源はあるので、町田市がどう差別化するかが大事なポイントになるが、コロナ渦で町田市はチャンスと考えている。例えば、都心からアクセスが良くて、テレワークには非常に適しているので、企業と里山を活用してワーケーションの整備も面白い。

また、町田市は昔から福祉に力を入れており、最近の子育て世代の転入が多いため、人に優しいというイメージがある。産業別の就労者数をみても卸・小売の次に医療・福祉ときており、関わっている方が多い。「優しいまちづくり」というブランディングも、可能性があるのでは。

・町田は留学生も多いので、そこをターゲットにした企画も期待している。

・今日の話は観光まちづくり課だけで担うのは難しい部分もある。他部署との連携や体制づくりが必要だが、「都市自治体におけるツーリズム行政ー持続可能な地域に向けてー」を参考にしてほしい。いろんな部署に観光が関係していることが分かっているが、私も町田の強みである福祉に観光を掛け合わせると、差別化が図れるのではないかと思う。

・町田市は様々な課題に対して深い議論をしているが、縦割りになってしまっていることを感じている。様々な課題に観光という視点で取り組みには、この縦割りを壊す新しい組織を立ち上げてしまっても良いと思う。

3 その他

・リーディングプロジェクト策定のスケジュールについて事務局から説明。